人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷(さと)●京丹波

広報 京丹波
KYOTAMBA

NO.86
12月号
2012年12月13日発行

スイセンを植え付け
人権啓発

発行／京丹波町　〒622-0292京都府船井郡京丹波町蒲生八ツ谷62番地6　電話（0771）82-0200（代表）・（0771）82-3801（直通）　企画・編集／企画政策課
［ホームページアドレス］http://www.town.kyotamba.kyoto.jp　［電子メール］kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

今月の表紙

和知小学校で行われた「人権の花」運動。和知地区の人権擁護委員の皆さんと同校4年生によりスイセンの球根の植え付けが行われました。取り組みには、人権イメージキャラクターの「人KENあゆみちゃん」も登場し、生徒らと交流しました。(関連記事を15ページに掲載)

NO.86 CONTENTS

2 原子力災害住民避難訓練
4 山々が色づく丹波路を快走 2012京都丹波ロードレース
6 秋の味覚で来場者をおもてなし 京丹波 食の祭典2012
9 Dr's Message いきいき健康術
10 町民の皆さんの思いを双葉町の皆さんへ 京丹波の秋の恵みを届け隊
12 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2012
交通安全活動に尽力し受賞 —交通安全功労等表彰
笑顔を大事に健康づくり —健康・生きがい講座
企業の力も加わり清掃活動 —ボランティア・ロード丹波
未来への継承を願い披露 —和知民芸のつどい
埋め立て量変更を確認 —瑞穂環境保全センターに係る公害防止協定一部変更の覚書調印式
丹波くりの生産拡大を目指して —京都丹波くり生産振興大会
華やかなステージを披露 —京丹波町文化祭
秋の実りを感謝し集う —上和知中部収穫感謝祭
地域防災の決意新たに —府民の消防賞贈呈式
咲かせよう 思いやりの花 —「人権の花」運動
まちづくりを提案し受賞 —第2回高校生論文コンテスト
16 シリーズ 季節の食材を使ったお手軽料理レシピ

原子力災害住民避難訓練

十一月四日の早朝から実施された原子力災害住民避難訓練。この訓練は、本町が定める原子力災害住民避難計画(暫定版)に基づき実施したもので、有事の際に適切な行動をとり、被害を最小限とするために多くの住民の皆さんに参加いただきました。

避難訓練とその後の意見交換会の様子をお伝えします。

住民避難訓練

今回の訓練では、福井県において発生した大地震により、関西電力大飯(おおい)原子力発電所で放射性物質流出を伴う事故が発生したと想定。同発電所から三十キロ圏内にある和知地区の仏主区、上粟野区の住民およびその周辺の細谷区、下粟野区、西河内区の住民が、瑞穂地区の山村開発センターみずほへ避難するものでした。

訓練は、午前六時すぎに告知放送で事故発生を通知。放送を聞いた町内の消防団員は、避難訓練に先立ち、召集訓練と地域の巡回などを行いました。

午前八時五分、仏主区および上粟野区に対して避難指示の放送が流れると、二集落の住民は、防護服を身にまとった消防団員や消防署員、町職員らに促され公民館へ集合しました。

午前八時十五分には、原子力発電所での事故が終息しないことから、細谷、下粟野、西河内の各区の住民にも避難を指示。各地区内では、続々と住民が集合場所に集まりました。

五ヶ所の集合場所に集まった住民百四十八人は、バスや自家用車などで避難先である山村開発センターみずほへ向かいました。

避難先の会場では、町や府の職員による受け付けおよびスクリーニング検査が本番さながらに実施されました。また、あらかじめ決められていた人がスクリーニング会場に訪れると、高い放射線量を検知したとして、体に付着した放射性物質などをふき取る除染作業も行われました。

スクリーニング検査を受ける参加者

説明を熱心に聞く参加者

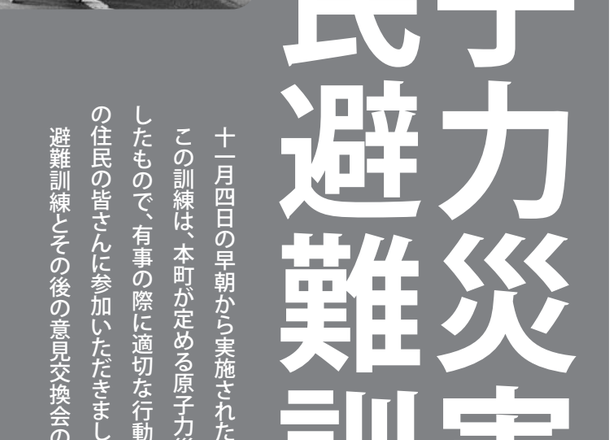
意見交換会

訓練終了後、今回の訓練に参加した、和知北部五集落の住民と消防団員、府および町の職員などは、山村開発センターホールへ移動。今回の訓練や原子力災害に対する理解を深めるための意見交換会に出席しました。

交換会では、京都大学原子炉実験所の三澤毅(みさわつよし)教授が、今回の訓練中に測定した放射線量が通常の値であったことや、町が貸し出している放射線量測定器などを使用して、日頃から定期的に放射線量を測定していくことが必要であることを説明しました。

参加した住民からは、今回訓練したような原子力災害が発生した場合の避難経路が、同地区の場合には二ヶ所しかないことから道路整備を求める意見や、実際に山村開発センターへ避難した後に、次はどこへ避難するかなどの質問が出されていました。

測定器を手に取り説明する三澤教授



山々が色づく丹波路を快走
2012京都丹波ロードレース

京都丹波ロードレース

ロードレースは、三キロ、三キロファミリー、五キロ、十キロ、ハーフマラソンの五種目を年齢別など三十一部門に分け開催されました。

スタートの前に行われた開始式では、オープニングに瑞穂鼓太鼓のメンバー二人による歓迎太鼓の演奏が行われ、会場内でウォーミングアップをするランナーの一部も足を止めて、力いっぱい打ち鳴らされる太鼓に聞き入っていました。

また、式では中野昭（なかのあきら）実行委員長が大会の開会を宣言した後、大会会長である寺尾豊爾（てらおとよじ）町長が「ランナーの方に、地元住民のおもてなしの心を感じてもらえるよう準備してきました。練習の成果を発揮し、走る楽しさと友情の輪を感じる大会にしてください」と全国各地から集まったランナーを歓迎しました。

ランナーは、午前十時二十分の三キロロードレースのスタートを皮切りに公園内を飛び出し、徐々に色づき始めた丹波の山々を背に、ゴール目指して走りました。

レース中、コースとなった道路沿いには、地域住民や関係者などが立ち、力の限りを尽くして走るランナーたちを応援していました。

沿道では多くの方がランナーを応援

スタート前にはしっかり準備運動

ハーフマラソンの部では、昨年に続いて下村悟（しもむらさとる）さん（滋賀県）が二年連続トップでゴールしました。

会場内でのさまざまな取り組み

京都丹波ロードレースの発着点となった丹波自然運動公園では、今回のロードレース開催に合わせたイベントが数多く開催されました。

中央広場では丹波の秋の味覚をふんだんに使った「うまいもの市」や「菊花展」が開催。うまいもの市には、町内外から約三十の事業者や団体が出店し、加工品や農産物を販売し、ロードレースに参加したランナーや応援に駆けつけた家族、公園来場者などが買い求めていました。

このほか、陸上競技場周辺では、町社会教育委員の皆さんによる折り紙一枚を百円で買い、折った鶴にメッセージを綴る本町の友好町である福島県双葉町への支援事業「双葉の鶴」も開催され、子どもから大人までが思いを込めた鶴を折っていました。

子どもたちも京丹波の食に大満足

観光PRブースでは味夢くんも登場

鮮やかに咲く菊に見入る来場者

来場者でにぎわう「うまいもの市」

双葉町支援活動「双葉の鶴」

親子で参加した３キロファミリー

秋の味覚で来場者をおもてなし

京丹波 食の祭典 2012

11月18日に丹波自然運動公園と須知高等学校を会場として開催された「京丹波食の祭典2012」。
昨年、国民文化祭の会場で行われた祭典が、今回は会場を変更して盛大に開催。2会場合わせて約8,000人が来場しました。
地域の「食」の力を結集した祭典の様子を会場別にお伝えします。

子どもたちに大人気の味夢君

丹波自然運動公園会場

●来場者を歓迎するステージ

食の祭典のメーン会場となった丹波自然運動公園では、午前十時の開会を前に、自家用車や町内を走るシャトルバスを利用した人たちが来場し始めました。

オープニングでは、和知太鼓保存会と瑞穂鼓太鼓のメンバー六人が共演。それぞれの曲を共に打ち鳴らすなど、力強い太鼓の音色を会場に響かせました。

開会式では、主催者を代表して寺尾豊(てらおゆたか)爾(じ)町長が「初めての取り組みとして屋台グランプリを開催するなど、京丹波の食を余すことなく堪能できるものとなっています。存分に祭典を満喫してください」と、町内外から訪れた来場者らを歓迎しました。

開会式後のステージでは、ミニライブや伝統芸能の披露が行われたほか、本町の「食」のキャラクター「味夢(あじむ)」君や昨年開催された国民文化祭のキャラクターで現在は京都府広報監として府のPR活動を行っている「まゆまろ」などが登場し、会場を盛り上げました。

午前・午後と行われたミニライブでは、九月三十日に開催されたレトロロックフェスティバル in 京丹波にも出演した京都出身のアーティストヨウヘイさんが出演したほか、地元京丹波町出身で音楽活動を行っている来人喜人(きとき と)と江本貴明(えもとたかあき)さんの二組が町をテーマにした曲などを歌い上げました。また、会場内では、児童虐待防止を呼びかける「オレンジリボンキャンペーン」の啓発活動も行われ、来場者にリボンなどを手渡し、啓発活動を行っていました。

ミニライブで歌うヨウヘイさん

●屋台グランプリ

食の祭典において初の取り組みとなった「屋台グランプリ」では、食の宝庫京丹波のナンバーワンを目指し、十五グループ・二十二品目が出品しました。

それぞれのブースでは、午前十時に販売が始まると、多くの人が列を作って買い求め、用意された二百食は、開始後一時間を待たずに売り切れとなるメニューも見られるほどの盛況ぶりでした。

会場内に設置された休憩テント内では、来場者が複数の出品作品を並べ、京丹波の食を楽しんでいました。

今回のグランプリでは、祭典の役員などによる試食の評価と、来場者が「これこそがグランプリ」と思うメニューの箸を、そのグループの箱に入れて投票する評価の合計で決定することとなっていたことから、来場者は自分の味覚を基に選んだメニューに投票していました。

初代グランプリには和知鴨工房(出野)が出品した「京丹波鴨ねぎバーガー」が選ばれました。結果は次のとおりです。(括弧内は出品者)

試作品を手に来場者にアピールするコンテスト受賞者と松本校長(右)
写真左は最優秀賞を受賞した西村さん

テント内は出品料理に舌鼓を打つ人で一杯に

最優秀賞
●京丹波鴨ねぎバーガー(和知鴨工房)

優秀賞
●耳うどん(下大久保耳うどん)
●さらびきたこ焼き「ダシたこ」一等賞」(グリーンランドみずほ株式会社)
●いづつ屋牛 牛丼(株式会社いづつ屋)

●あったらいいなこんな食べものアイデアコンテスト表彰式

地域特産品を使い「食の京丹波」をイメージする新たな料理のアイデアを募集していた「あったらいいなこんな食べものアイデアコンテスト」の表彰式が会場内のステージで行われ、最優秀賞を受賞した西村智子(にしむらともこ)さん(中台)をはじめ、優秀賞、特別賞を受賞した方に須知高校の松本和久(まつもとかずひさ)校長から表彰状などが授与されました。

表彰式終了後には、西村さんが考案した早取りの金時人参「京かんざし」を使った「京かんざしかりんとう」の試食が配られ、受賞を見届けた人たちは、珍しいメニューを楽しんでいました。

盛りだくさんのイベント

会場内では、このほかにも来場者を楽しませてくれるたくさんのイベントが行われました。

2会場に設置された6つのスタンプを集めて回るスタンプラリーには、親子連れなどが参加し、全て集めた参加者は、最後にくじを引いてプレゼントをもらっていました。

また、丹波自然運動公園主催による「森のバザール」も開催。衣類や雑貨、花などが並び、来場者が足を止めて買い求めていました。

スタンプラリー後のくじ引きでは、味夢君のぬいぐるみが当たる人も

店の前には来場者の長蛇の列

おめでとうございます
グランプリ
和知鴨工房

うれしい。その一言に尽きます。和知で鴨を育てて商品化していこうと取り組んでいますが、これからも真面目に地元への恩返しになるように取り組んでいきたいです。

須知高等学校会場

飛ぶように売れた須知高校の加工品

会場に続々と訪れる人たち

珍しい加工品が並ぶテントを訪れた来場者

大きな釜で調理される須高鍋

子どもたちに大人気の動物ふれあいコーナー

京丹波ふるさと弁当を買い求める人たち

須知高校が独自に開催されている「収穫感謝祭」。今回は、食の祭典の会場として位置づけられ、自然運動公園会場でのオープニングイベントが終わる十時三十分から始まりました。

会場内は、開始前から多くの人が訪れ、物品を購入するための券を販売するテントには、長蛇の列ができました。

会場内では、同校で栽培された新鮮な野菜の収穫や販売、大きな釜で調理された豚汁風の「須高鍋」、「炎の石窯ピザ」として今回初お披露目となった窯で焼いたピザの販売が行われ、多くの人が買い求めていました。

また、今回のイベントでは、全国の農業高校で生産される加工品も販売され、珍しい産品なども並び、来場者の目を引いていました。

このほか、有名料亭「京都吉兆」の料理人から指導を受け百食限定で調理された「京丹波ふるさと弁当」は、販売早々に売り切れとなるなど、会場内ではどのコーナーも大盛況でした。

Dr's Message

いきいき健康術 第64回

『インフルエンザにまつわる意外な話』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。

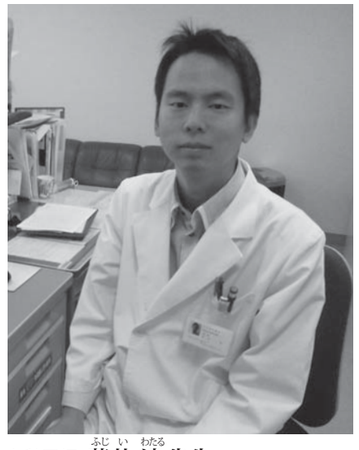
今回の担当は京丹波町病院内科医師の藤井渉先生。冬場に流行するインフルエンザに関するお話です。

予防接種を打ったのにインフルエンザにかかった？

予防接種は、六十五才以上の方の四十五パーセントの発病と八十パーセントの死亡を減らす効果があるといわれています。つまり予防接種を打ってもインフルエンザを百パーセント防ぐことはできず、最も重要なのはうがい、手洗いなどの基本的な予防法です。しかし高齢者や肺、心臓などに病気がある方には、重症化を防ぐためにも予防接種をお勧めします。

インフルエンザのときに風邪薬を飲んではいけない？

一般的な解熱薬であるボルタレン®（一般名：ジクロフェナクナトリウム）を服用したインフルエンザ患者さんが、脳症を発症したという報告例があります。市販の風邪薬には様々な成分が含まれている場合がありますので、インフルエンザかもしれないと思ったらまず医師にご相談ください。解熱薬の中でもアセトアミノフェンという薬は比較的安全といわれています。



内科医師 藤井（ふじい） 渉（わたる） 先生
（京丹波町病院）

薬を飲まなくても治る？

インフルエンザは、ウイルスによる感染症ですので、通常は約一週間でウイルスが体外に出て自然に治ります。早く治すために一番有効な方法は、十分な栄養と水分を摂り、ゆっくり休んで安静にすることです。ただし、高齢者や乳幼児、免疫力の低下している方は、インフルエンザ治療薬の投与が望ましい場合があります。治療薬には飲み薬、吸入薬、点滴薬があり、発病後二日以内に使用すれば一～二日早く治るといわれています。

体調を崩しやすい季節ですが、十分栄養と休養をとり、抵抗力をつけて寒い冬を乗り切りましょう。

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎86―0220

絆 Futaba & Kyotamba

町民の皆さんの思いを双葉町の皆さんへ

京丹波の秋の恵みを届け隊

本町の友好町である福島県双葉町。今回、東日本大震災で被災され避難を余儀なくされた同町の皆さんへ、社会教育委員の皆さんにより「京丹波の秋の恵みを届け隊」として町内で採れたお米やクリなどが届けられました。委員の皆さんの活動の様子や、思いをお伝えします。

支援物資を届ける準備をする社会教育委員さんら（町中央公民館・蒲生）

今回の支援活動は、社会教育委員の皆さんが「終わりがみえない避難生活を送られている双葉町の皆さんに、自分たちにできる支援が何かないか」という思いから、本町で今年の秋に採れた「食」を、避難されている皆さんに届けることとなりました。

支援物資は、十月二十二日から二十四日まで、町中央公民館と瑞穂、和知の各支所で受け付けを実施。折り込みチラシや新聞記事を見た町民から、毎日たくさんの今年収穫された米、クリ、黒大豆枝豆などが持ち込まれました。

受付と届ける準備には社会教育委員の皆さんのほか、ボランティアで手伝っていただける方もあり、着実に準備が進められました。受け付け終了時には、募集した新米約一、五〇〇キログラム、クリ約三十三キログラム、黒大豆枝豆約二十八キログラムと、たくさんの梅干しが提供されました。

社会教育委員代表の中野昭（なかのあきら）さんをはじめとした届け隊一行は、十月二十五日に双葉町の町民約百八十人が生活される埼玉県加須（かぞ）市の旧騎西（きさい）高校の避難所を訪問。地元のボランティアの協力を得て、本町から持参したクリと新米を使ったくりご飯と黒大豆枝豆、梅干しが振る舞われました。

翌二十六日には、福島県郡山市およびいわき市の仮設住宅に避難されている方たちを訪問。三キログラムずつ袋詰めされた新米などの支援物資を届けました。

現地のボランティアの皆さんと一緒にくりご飯を準備（旧騎西高校・埼玉県加須市）

インタビュー

社会教育委員代表
中野 昭さん

避難所の様子はいかがでしたか？

避難所を訪問するまでは、避難されている人も疲れて、沈んだ雰囲気かと思っていましたが、みんな元気で逆にこっちが励まされました。

くりご飯を届けると、避難所の人からは「（震災までは）自分で作った米を食べていたのでありがたみが分からなかった。今回被災して本当に皆さんにはお世話になりうれしい」という声を聞きました。

今後の活動は？

こういう活動は、一人でしようと思ってもなかなかできません。皆さんに協力していただいたおかげで今回届けることができました。

今回の届け隊を終えて、「来年はもっと（提供する量を）頑張らせてもらいます」という声もいただきました。

町内には多くの団体もありますので、この届け隊だけでなくいろいろな形で双葉町の皆さんに息の長い支援を続けていければと思っています。

今回、届け隊を行うことになった経緯は？

九月十六日の社会教育委員会において、今年もジャガイモを届けたが、自分たちや町民みんなでできる支援がもっとないかを話しました。

野菜を届けるという話もありましたが、保存がきかないという問題もあり、町内の多くの方が作っているお米、特に新米を届けてくりご飯の炊き出しをしてはどうかということになりました。

最終的に百人を超える方々に協力していただいたことはありがかったです。

お礼の手紙が届きました

皆さんのご協力のもと実施された「秋の恵みを届け隊」。今回お米などを提供していただいた方に対するお礼の手紙が福島県いわき市にある仮設住宅の自治会から届きました。

この手紙は、届けられた物資の中に提供者の住所がわからないものもあったことから、町教育委員会あてに送付されたもので、教育委員会から提供いただいた方に届けられました。

紙面の都合で一部のみになりますがご紹介します。

このたびは、手作りのお米をいただきありがとうございました。お米は、私たちの町でもほとんどの人が自家米で、買って食べるという事がなかったので本当にうれしいです。みんな大喜びです。

京丹波町とは、姉妹町ということですが、こんな時皆さま方より心のこもった贈り物をいただき何より嬉しいです。お米も嬉しいのですが、一年七ヶ月もたった今日、私たちを忘れないでいてくださったことが、嬉しくて胸を熱くし、幸せを感じています。

（中略）

私たち町民は、日本全国に散らばってしまいました。自宅から六十キロくらい離れたいわき市に住んでいる私たちは、ふるさとに近いだけ幸せを感じています。

（中略）

「このまま双葉町はなくなってしまうのだろうか」「どこに住めばよいのだろうか」悩みはつきません。

でも、みんな避難者だけじゃなく一人間として、最低限の文化的な生活を保障してほしいと思っています。

今後、双葉町が復興したときには、皆さま方のようにボランティア精神を持ち、世の中の役に立ちたいと思っております。

最後になりましたが、皆々さま方のご健康とご多幸をお祈りいたします。

福島県いわき市
双葉町南台自治会

交 通安全活動に尽力し受賞

■交通安全功労等表彰

南丹・船井交通安全協会京丹波支部の上田次雄支部長がこのたび、長年の交通安全に対する取り組みを評価され、京都府交通対策協議会から交通安全功労等表彰を授与されました。

今回の表彰では、京都府内で上田さんと同様に地域の交通安全に取り組まれている九団体と個人十八人、二つの町のほか、年間の交通事故死者が前年を下回った十五の市区町村が受賞しました。

十一月二十一日に京都府公館で行われた表彰式では、同協議会の会長である山田啓二京都府知事から、上田さんら受賞者に対して表彰状が授与されました。

受賞した上田さんは「今回の受賞は、私個人が受賞したのではなく、支部の皆さんが共に頑張って活動していただいた結果と思っています。年末に向けて慌しくなるので、ルールとマナーを守って安全運転してほしいです。」と、支部の皆さんへの謝意と交通事故防止への思いを話していました。

表彰を受けた上田さん（京都府公館・京都市）

笑 顔を大事に健康づくり

■健康・生きがい講座

こころと体の健康について考える健康・生きがい講座が十月二十七日、丹波マーケスコミュニティホールで開催され、京丹波町および南丹市の住民約七十人が参加しました。

講座では、「こころ元気配達人」として活動する、こころ元気研究所所長の鎌田敏さんが「笑一若！こころ元気に生きる！」と題して講演。鎌田さんは、参加者同士で趣味の話をさせるなどしてコミュニケーションをとることで、お互いが近い関係になれることを実践し、「心の健康は豊かな人間関係につながります。人を元気にさせるパワーがある笑顔を大事にして、すてきな笑顔の輪を作ってください」と語りかけていました。

隣に座る知人と会話を楽しんだ参加者の一人は、「趣味の話をしてみると、私が以前からしてみたいと思っていたことをされていることがわかり、今度一緒にすることになりました」と、顔見知りの人との新たなつながりを発見していました。

また、健康体力づくりの会の健康運動実践指導者である山根光子さんは、健康な体で毎日を送るために健診を受けることを勧め、手軽にできるストレッチや、タオルを使った運動などを、参加者と共に実践していました。

参加者と楽しく会話しながら講演する鎌田さん（丹波マーケス・須知）

企 業の力も加わり清掃活動

■ボランティア・ロード丹波

十月二十八日、ボランティア・ロード丹波が丹波自然運動公園から京都縦貫自動車道丹波インターまでの国道九号沿いで行われました。

この取り組みは、地域住民が主体となり、町および道路管理者である国土交通省が協力して実施するもの。年間三回行われており、今回が今年度最後の開催となりました。

清掃活動には、京都市内にある三菱自動車パワートレイン製作所京都工作部の社員約百二十人が、地域貢献の一環として参加。地域住民約百人と、雨の中を国道沿いにある植樹帯の草引きやゴミ拾いを行いました。

清掃活動が行われた国道沿いは、参加者の力により、京都丹波ロードレースや食の祭典の開催を前に、きれいに整備されました。

雨の中、植樹帯の草引きをする参加者（国道九号沿い・須知）

未 来への継承を願い披露

■和知民芸のつどい

十月二十八日、和知ふれあいセンターにおいて「大好きです　ふるさとの伝統芸能」と題した和知民芸のつどいが開催されました。

今回のつどいは、昭和三十七年に地域に伝わる伝統芸能を継承していくことを目的に設立された、和知民芸保存会の設立五十周年を記念して行われたもの。和知地域に伝わる文七踊り、人形浄瑠璃、小畑万歳、太鼓の保存会がそれぞれ継承してきた伝統芸能を披露しました。

また、和知地域では小・中学校のクラブ活動で伝統芸能を取り入れており、所属する生徒たちによる太鼓や人形浄瑠璃も行われました。

和知文七踊り保存会の出野均（いでのひとし）会長は、伝統芸能の継承の難しさを実感している現状ながら、八月に行われたわちふるさと祭りでは、多くの人が参加したことを喜び「伝統芸能を未永く継承していくことは難しいですが、子どもたちも含めて受け継いでいきたい」と意欲をみせていました。

人形浄瑠璃を披露する和知中学校の生徒たち（和知ふれあいセンター・本庄）

埋 め立て量変更を確認

■瑞穂環境保全センターに係る公害防止協定一部変更の覚書調印式

猪鼻地内にある瑞穂環境保全センターの埋め立て量を定める公害防止協定を一部変更する覚書の調印式が十一月七日、役場議場において行われました。

調印式には、本町の寺尾豊爾（てらおとよじ）町長と事業者の株式会社京都環境保全公社の壇野恭介（だんのきょうすけ）社長、覚書締結の立会人として京都府の山内修一（やまうちいち）副知事が出席。同社が定める「新保全計画」に基づき、センター内の埋め立て量を四十一万四、〇〇〇立法メートル増やして百六十五万立方メートルとし、埋め立て完了期間を二〇二四年とする覚書を締結しました。

調印式で壇野社長は、「この二年間、埋め立て量の変更を経営の最重要課題として取り組んできました。産業廃棄物の適正処理と地元地域との共生に取り組み、今後とも安全・安心・信頼の事業運営を行っていきます」と、今後十二年間行われる同地での事業を適切に行っていく考えを述べました。

覚書を交わし、力強く手を携える寺尾町長（中央）と壇野社長（右）。左は山内副知事（役場議場・蒲生）

丹 波くりの生産拡大を目指して

■京都丹波くり生産振興大会

十月三十日、京都丹波くり生産振興大会（同実行委員会主催）が山村開発センターみずほで開催されました。

これは近年生産者の高齢化などで生産量が減少する本町の特産品「丹波くり」を、丹波地域全体で生産拡大に向けて取り組んでいくために初めて開催されたもの。南丹および中丹地域の生産者や流通・加工に関係する団体の関係者約百四十人が参加しました。

大会では、近年生産量が増え、京都へ向けた出荷も行われている愛媛県から南予地方局八幡浜支局地域農業室の近藤俊夫（こんどうとしお）さんが、同地域で行われている補助金を活用したクリの樹木の改植作業や、高齢化が進む中での省力栽培について講演されたほか、丹波くりの生産者など三人が事例発表を行いました。

今回の大会を主催した実行委員会の山内善継（やまうちよしつぐ）会長は「丹波くりの生産地である南丹および中丹地域全体で落ち込んだ生産量を持ち直していきたい。今回の大会はその起爆剤になればと思っています」と町の特産品である丹波くりのさらなる生産拡大に向けた思いを語っていました。

開会のあいさつを述べる山内さん（山村開発センター・大朴）

華 やかなステージを披露

■京丹波町文化祭

町民の文化活動の発表の場として町文化協会が開催する京丹波町文化祭が十一月十日から十二日まで開催されました。

文化祭では、展示の部とステージの部が行われ、十一月十一日に山村開発センターみずほで行われたステージの部では、和知人形浄瑠璃や丹波音頭など、地元に根付いた芸能をはじめ、コーラス、ピアノ演奏など幅広い分野の発表が行われました。

町文化協会の深川嘉生会長は「出演される方は、一年間練習に励んできて今日披露されます。十日から始まった文化祭を存分に楽しんでください」と、来場した人たちに呼びかけていました。

また、期間中、和知ふれあいセンターで行われた展示の部は、同協会に加入する十二の団体および個人が出展。訪れた人らは、町内の方が取り組まれている文化活動の成果を鑑賞していました。

美しい歌声を披露したコーラスグループ（山村開発センター・大朴）

秋 の実りを感謝し集う

■上和知中部収穫感謝祭

十一月十日、篠原体育館およびその周辺で上和知中部村おこし委員会（白樫貢会長）主催による収穫感謝祭が行われました。

この収穫感謝祭は、同委員会が発足した三年前から行われているもので、委員会を構成する篠原、大迫、長瀬、塩谷、上乙見、下乙見の各区が、地域で採れた野菜や、くりご飯などの加工品を販売。地区住民から提供された物品を販売するリサイクルバザーも開催され、多くの方が買い求めていました。

また、グラウンドでは、ゲートボールやグラウンドゴルフが行われ、高齢者だけでなく、若い人たちも混じって楽しんでいました。

体育館では、農産物の品評会が開催されたほか、ステージ発表が行われ、和知太鼓保存会による太鼓の演奏、あじさいの会による踊りが披露されました。

地区ごとに出店したテントが軒を連ねる会場（篠原体育館周辺・篠原）

地 域防災の決意新たに

■府民の消防賞贈呈式

町消防団の梅原好範団長がこのたび、第三十回府民の消防賞（京都新聞社主催）を受賞され、京都新聞文化ホールで十月二十五日、贈呈式が行われました。

この賞は、京都府内において、消防・防災活動や人命救助に功績のあった方や団体に贈られるもので、今年は梅原団長を含む六人と一団体が受賞されました。

梅原団長は「私自身の力は微々たるもので、先輩方や、仲間、地域の方々に支えられての受賞と考えています。災害形態の変化や高齢化などにより、消防団の活動も多様化が求められる中で、これからも地域の安心・安全のためにさらなる研さんに努めていきます」と、今後も一層、消防団活動に尽力する決意を見せていました。

府民の消防賞を受賞された梅原団長
（京都新聞文化ホール・京都市）

咲 かせよう 思いやりの花

■「人権の花」運動

法務省が実施する「人権の花」運動に関連した取り組みとして、十一月二日および二十日に町内の二小学校でスイセンの球根の植え付けが行われました。

十一月二十日に和知小学校で行われた取り組みには、和知地区の人権擁護委員三人と同校の四年生二十人、京都地方法務局園部支局の田村厚夫支局長などが参加しました。

人権擁護委員の皆さんと児童らは、鉢とプランターに、スイセンの球根を一鉢ずつていねいに植え付けました。

植え付けを終えた参加者は、校舎内へ移動。委員の和久田正八さんが電子黒板を使って、人権に関する話を紹介しました。

児童らは、人それぞれにある個性を大事にしないといけないことを伝える和久田さんの話を聞きながら、思いやりの大切さを学んでいました。

参加した人権擁護委員の野間幸栄さんは「友だちや家族などの人の命も花の命も大切なものです。今日植えた球根も大切に育ててきれいな花を咲かせてください」と生徒に対して命の大切さを語りかけていました。

協力して植え付けをする生徒と人権擁護委員（和知小・本庄）

ま ちづくりを提案し受賞

■高校生論文コンテスト

京都学園大学経済学部主催による第二回高校生論文コンテストにおいて、地元須知高等学校の生徒が最優秀賞などを受賞。十一月二十日に同校で授賞式が行われました。

このコンテストは、次世代を担う高校生が、これからの社会のあり方を考え、発表する機会を設けることを目的に同大学が昨年から実施。今年は「あなたの街をもっと魅力的に」をテーマに募集したところ、全国から二百本の応募がありました。

須知高校からは、普通科の三年生が、国語科の授業で取り組んだ二十八本を応募し、最優秀賞に西村拓人さん、特別賞に浅野俊吾さんが選ばれました。

授賞式では、京都学園大学経済学部の平田謙輔教授から二人に表彰状が授与され、西村さんと浅野さんは緊張した表情で受け取りました。

地域の活性化のために「町内の農地の有効活用」と「高齢化社会に対応した福祉型のまち」の二点を柱にまちづくりを提案した西村さんは、「以前から思っていた地元に対する考えを書きました。受賞できてうれしいです」と、多くの作品の中から自分が最優秀賞に選ばれたことを喜んでいました。

表彰を受ける西村さん。奥は浅野さん（須知高校・豊田）

わたしたちの町

人　口	
16,275(−8)	
男	
7,685(−7)	
女	
8,590(−1)	
世帯数	
6,473(+11)	

12月1日現在／（　）は前月比

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,884,730円
復興支援募金	5,199,803円

＊平成24年11月30日現在

［シリーズ］第15回
食卓の一品に
どうぞ!!

季節の食材を使ったお手軽料理レシピ

このコーナーでは、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに掲げ、食生活を通した健康づくりに取り組んでいる食生活改善推進員協議会の皆さんに、季節の食材を使って簡単に調理できる料理を紹介していただきます。

今回は、イモ類の中では比較的低カロリーな「里芋」を、豚肉と照り焼きにしました。一緒に食べることで免疫力を高める効果もありますので、冬場の健康管理に一度お試しください。

今回の料理

里芋と豚肉の照り焼き

1日に必要な野菜の量は300～350ｇ。このメニューでは約145gの野菜が取れます。

【材料（2~3人分）】

- ◆里芋……4個
- ◆豚こま切れ肉……150g
- ◆玉ねぎ……1/2個
- ◆人参……1/2本
- ◆ネギまたは青じそ‥適量
- ◆片栗粉……大さじ2～3
- ◆油……小さじ2

〈タレ〉

- ◇酒……大さじ2
- ◇みりん……大さじ2
- ◇しょうゆ……大さじ2
- ◇砂糖……大さじ1杯半

■作り方

①里芋は、皮をむいて一口大に切り、柔らかく茹でる。
②人参は乱切りにし、さっと茹で、玉ねぎはくし型に切る。
③一口大に切った豚肉と①の里芋に片栗粉をまぶす。
④タレの調味料を合わせておく。
⑤フライパンに油をひき、豚肉を焼く。中まで火が通れば里芋と②を入れて炒め、合わせておいた④を入れて混ぜる。
⑥トロミが出てきたら火を止め、細かく刻んだネギまたは青じそをかける。

■栄養価（1人分）

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
265kcal	11.8g	10.0g	33mg	3.1g	1.8g

〈次回は3月号に掲載する予定です〉

編集後記

広報担当となってもうすぐ９ヶ月。この間、慣れないながらも毎月発行し、皆さまにはご迷惑をおかけした点もあるかと思います。

来年は、さらにじっくり深く取材に取り組み、皆さんに町内の様子をお伝えできればと思っています。

年末を迎え、何かと忙しい毎日をお過ごしと思いますが、お体をご自愛いただき、健やかに新年をお迎えいただきますよう願っております。（T）

京丹波町のシンボル

【町の鳥】うぐいす

【町の木】イチョウ

【町の花】つつじ